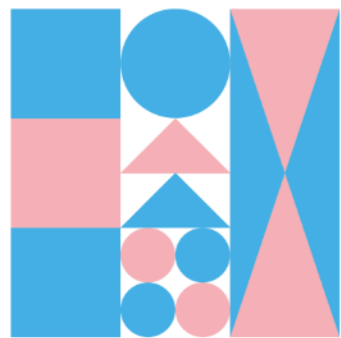




さくら咲き
心地よいまち
ずっとめぐろ



令和7年3月28日
教育課程企画特別部会
資料 1 - 4

MEGURO

文部科学省研究開発学校（指定期間：令和元年度～5年度、延長6年度～8年度）
目黒区教育委員会事務局教育指導課・目黒区立東山小学校
2025.3.28 教育課程企画特別部会

目次 -index-

- 0 はじめに
- 1 目黒区研究開発学校の教育課程の特徴
- 2 授業時間の弾力的な運用について
- 3 「生み出した時間」について
- 4 学校経営の視点から
- 5 教育委員会としての関わり
- 6 今、取り組んでいること
- 7 次期学習指導要領への期待

0 はじめに

目黒区教育委員会が考えていること

時間に係る「裁量」を拡大することがより適切な教育課程に

教育課程に係る実態

学習指導要領＋αの取組が教育課程上、求められることもある。

児童・生徒、教職員、地域は
多様で、個性的

自治体独自の
特色ある取組

小学校学習指導要領 教育課程編成の原則（第1章第1の1）

各学校においては、教育基本法及び学校教育法その他の法令並びにこの章以下に示すところに従い、児童の人間として調和のとれた育成を目指し、児童の心身の発達の段階や特性及び学校や地域の実態を十分考慮して、適切な教育課程を編成するものとし、これらに掲げる目標を達成するよう教育を行うものとする。

1 目黒区研究開発学校の教育課程の特徴

授業時間を弾力的に運用し、生み出した時間を活用することで
それぞれの実態に応じた教育課程の編成・実施を可能に

研究開発学校（小学校）の特例

1 単位時間（40分）＝ 1 コマ

※学校教育法施行規則第51条の規定によらず

削減した5分は

「生み出した時間」として活用

※小学校第4学年、第5学年、第6学年において

通常の小学校
(45分)

45分 × 1015コマ

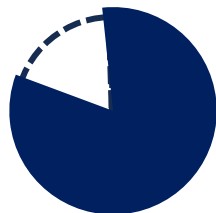
目黒区研究開発学校
(40分)

40分 × 1015コマ

5分 × 1015コマ = 5075分

生み出した時間

約127コマ



学校の特色ある
教育活動の時間



+



教育の質向上のための
教員の時間



(各教科等に該当しない活動時間も含む)

※目黒区研究開発学校（中学校）は1コマを45分で実施。以下、目黒区研究開発学校（小学校）を例に説明。

2 授業時間の弾力的な運用について

授業時間「40分」は方法で、目的は教育の質向上

40分 × 1015コマ

5分 × 1015コマ 127コマ

※小学校第4学年、第5学年、第6学年において

「40分」授業の実施

授業改善



- 単元指導計画、年間指導計画のリデザイン
 - 単元の目標を意識した授業デザイン
 - 見方・考え方の意識
 - 教科等横断的な授業デザイン

- 1 単位時間の授業のリデザイン
 - ・ 教師用指導書の相対化
 - 発問・活動の精選
 - ・ ICT の活用

等

5 分間の時間創出



児童の
資質・能力の向上



授業改善の推進
(教材研究・準備・研修)

「生み出した時間」の活用

学校の特色ある
教育活動の時間



- ・ 体験的な活動
- ・ 探究的な活動
- ・ 多様な他者との関わり合いを深める活動
- ・ 学びの基盤づくりの活動
- ・ 自治的な活動 等

特色ある教育活動の
検討・開発・準備等

教育の質向上のための
教員の時間



- ・ 研修の充実
- ・ 学年会の充実
- ・ 教材研究、準備の充実
- ・ 多様な補助的教員との連携の充実 等

2 授業時間の弾力的な運用について

学習指導要領に示された内容の着実な実施が前提

導入当初の教育委員会の支援（取組）

取組 1

指導資料の作成・共有
(40分授業のデザイン)



取組 2

学校を超えての
授業の見合い・協議



取組 3

教育委員会による
巡回指導



取組 4

児童の実態把握・分析



教科専門WG部会による
指導資料の作成・共有
(単元デザイン・授業の
ポイント等)



教員同士が学校を超えて学び合う
場「研究開発学校の日」を設定
(年間2回実施)



指導主事・専門員（元校長）
による区研究開発学校の巡回
訪問による指導
(全校年間2回実施)

各種調査で実態把握・分析

- ・全国学力・学習状況調査
- ・区学力調査（独自）
- ・目黒区研究開発学校意識調査
（児童・教員）
- ・東京都児童・生徒の学力向上
を図るための調査 等

2 授業時間の弾力的な運用について

見えてきたこと...

「40分」というフレームが工夫を生む

授業改善の促進

- ・ 発問や活動の精選
- ・ 目標の明確化
- ・ 単元を意識した授業デザインの意識の向上
- ・ 1人1台端末の活用促進
- ・ 教員同士の情報共有の活性化

タイムマネジメント意識の向上

- ・ 活動時間確保の工夫
- ・ 時間を守る意識の向上と工夫
(子供も、教員も)

中学校の「45分」も順調に浸透

中学校においても同様の工夫が生まれています。

＼目黒区研究開発学校（中学校）の意識調査（教員）／

45分授業に変わったことについてどのように感じていますか。

- 長年使っていたワークシートでは時間内に終わらないことがあり、見直した。
- 50分でやっていた今までの方法では終わらず、授業内の帯の活動を見直した。残念な気持ちもあるが、形骸化していた取組だったとも感じる。
- 課題は感じていないが、子供たちの端末がなかったら難しいと思うし、端末を活用する場面は確実に増えた。
- 放課後に時間が生まれ、教科担当での打ち合わせ時間が多くもてるのがよい。
- 職員室で教科を超えて先生たちが授業の話をするが増えた。
- 生徒も自分たち教員も時間を守る意識が高まった。

3 「生み出した時間」について（目黒区立中目黒小学校）

子供一人一人の興味・関心を活かす学習活動が充実

当初の課題

中目黒小学校では、「自律的な学び手の育成」を目標に、ミドルリーダーを中心に3つのチャレンジを考えた。ネックとなったのが、「個人探究」の時間確保と新しいチャレンジへの教員の準備等の時間の確保。

1 単元内自由進度学習



学習者主体の学び

自律的な 学び手 の育成

3つの チャレンジ

2 個人探究



3 マイプラン



学校生活の見通しと振り返り

生み出した時間①

「学校の特色ある教育活動の時間」の活用

- ・各教科等で学んだことも生かしながら、児童一人一人が自分の興味・関心に応じて自ら課題を設定し、主体的に探究に取り組む時間
- ・金曜日の6時間目（40分）にフリースタイルプロジェクトの時間を設定

生み出した時間②

「教員の時間」の活用



協働的に研究したり、準備したりする

「教員の時間」がチャレンジを促進

3 「生み出した時間」について（目黒区立油面小学校）

多様な他者と関わり合いながら学ぶ力の育成が充実

生み出した時間

当初の課題

油面小学校では、肢体不自由特別支援学級（わかたけ学級）が併設している。学校では、「多様な他者と関わり合う」ことを大切にしたいという強い思いがあったが、時間の確保が難しい状況にあった。

学校で大切にしたいこと

多様な
他者と
関わり合う

さくらタイム・なの花タイム



昼に、帯で子供と教師が協働して全校の関わりを深めるための活動（集会等）を週2回、さくらタイム・なの花タイムとして設定して、安定的に他学年の児童、わかたけ学級の児童が関わり合う時間を設定した。

たてわり班活動



交流及び共同学習



		月	火	水	木	金
5校時	11:50～12:30	21	22	23	24	25
給食	12:30～13:15	給食・歯磨き				
清掃	13:15～13:30	清掃		下校準備	清掃	
昼休み	13:30～13:45	昼休み			昼休み	
学習準備	13:45～13:50	準備			準備	
関わりを深める時間	13:50～14:10			下校		
6校時	14:15～14:55	26	27		28	29
帰りの会	14:55～15:05					
最終下校	15:45					

多様な他者と関わり合う時間を安定的に確保（標準授業時数にプラスすることなく）

学校が今、子供達に必要と考える教育活動の時間を確保

3 「生み出した時間」について

生み出した時間が...

子供や地域の実態に応じた教育の実現に向けた 学校の創意工夫を引き出す！

特色ある教育活動が充実

- ・ 興味・関心のあることを個人で探究する活動
- ・ 体験活動の充実を図る活動
- ・ 自治的な活動の充実を図る活動等
- ・ 学習の振り返りから生み出された問題を追究する活動
- ・ 幼稚園・こども園との交流活動
- ・ 体力向上の取組



学校のチャレンジを促進

学校の大切にしたいことの充実

子供たちに「こういう力を付けたい」という教師の想いと
その想いを形にする時間の確保

更なる具体的な内容は、「滋賀県愛荘町秦荘西小学校（研究開発学校）」の取組を参照

4 学校経営の視点から（目黒区立東山小学校）

1 週間の午後の時程・予定表 ～有効な時間活用～

午後の時間

	月		火	水	木	金
6	13:40 帰りの会・下校 移動・準備(15)		帰りの準備 (15)		裁量 (20)	
	13:55	クラブ 40分	委員会 40分	児童集会 (15)		準備・移動
				下校 14:20～ ①職員連絡会 ②5部会 ③2行事		
	14:35		14:05		14:00～ 【研究開発日】 ・研究会 ・教材研究 ・資料作成 他	
14:45		26 (3～6年)		27 (3～6年)		28 (4～6年)
16:35		No meeting 【若手研修】 月1回		主任会／学年・専科会		14:30～ No meeting

勤務終了 16:35

↑

生み出した時間 = 教育の質の向上

4 学校経営の視点から（目黒区立東山小学校）

生み出した時間の主な活用

現在の学校
現実課題

ねばならないことは年々増加
すべきことの時間が足りない

40分授業・午前5時間制で生み出した
午後の時間的資源をどのように生かすか

◆40分授業

【自主的な学習能力の育成】

- 主体的な学習の時間の位置づけ（児童が選択する学習／裁量）
＊週2回20分間

◆教員の力量

【教師として成長する機会と場の保障】

- 学習指導、生活指導などの校内研修の充実
- 若手の育成 伝達講習、対話・相談
- 対話などによる同僚性や協働性、組織力の向上 〈不安・悩みの解消〉

◆学校の教育力

【課題解決に必要なこと】

- 午後の「余白」＝授業づくり（教材研究、資料準備など）、校務処理
学校運営、教育活動、行事、保護者対応など
- 校内研究を柱とした授業力の向上

学習の復習・予習
デジタルスキルの活用
学習の計画と行動

知識・技能の習得
若手のサポート体制
時間・心理的負担の軽減

自分のために使える時間
教育ビジョンの達成
家庭と仕事の両立

5 教育委員会としての関わり

学校グランドデザインを生かした伴走支援

目黒区研究開発学校では、PDCAを意識した教育課程の編成がしやすい共通のフォーマットを活用している。

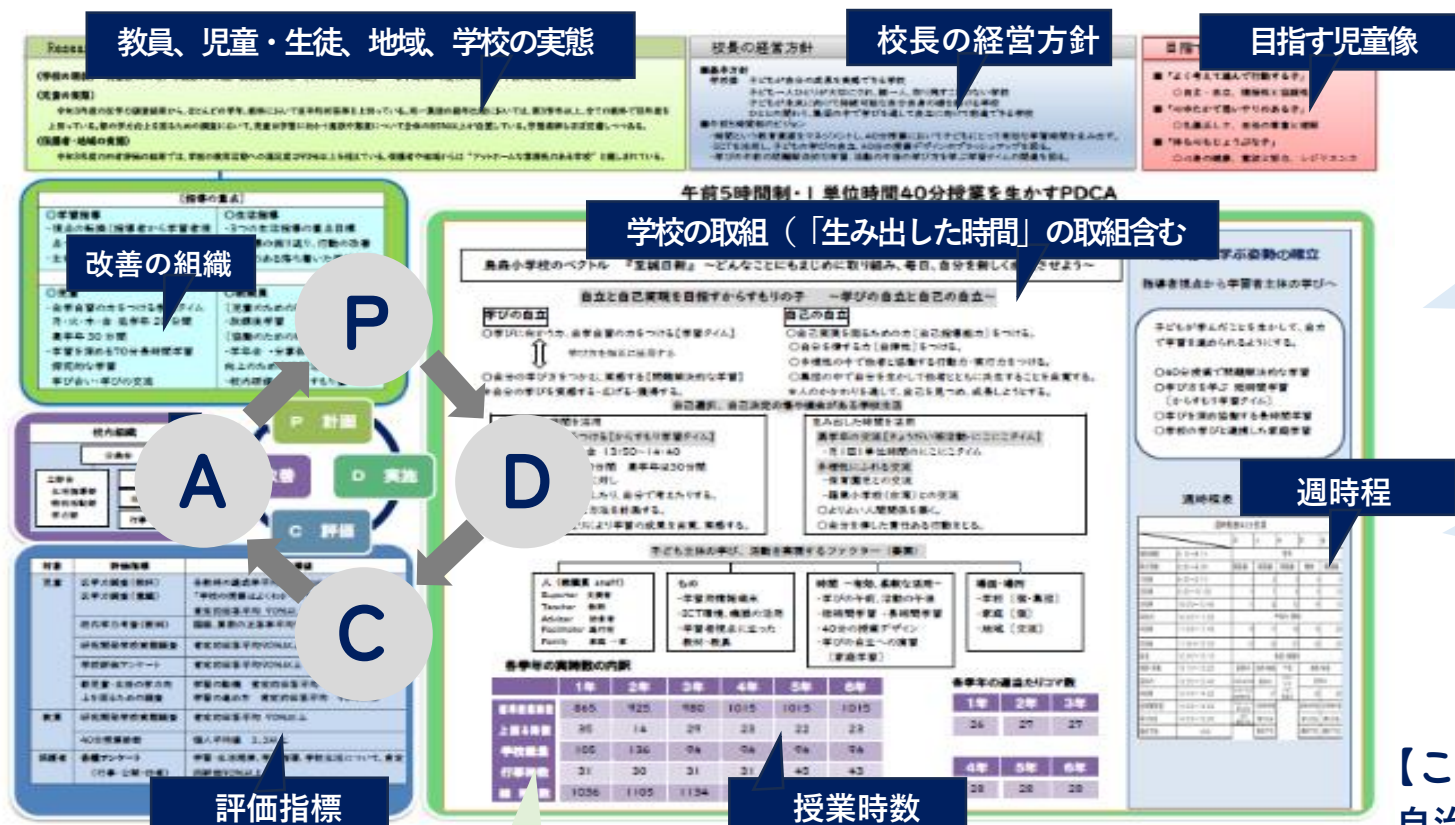
学校にとって

共通フォーマットによりカリキュラム・マネジメントが意識しやすくなっている。

自治体で共通フォーマットを使い、共有することで、他校の良さが分かる。

保護者・地域に向けて

学校便りや学校HPで学校の取組を情報発信する。



教育委員会にとって

各学校の特色ある教育活動、週時程、またそのつながり等、学校理解につながられる。

生み出した時間の取組、学校グランドデザイン、学校実態から助言する。

【その他の教育委員会の関わり】

自治体規模で実施する強みを生かしている。

- ・ 学校間の情報交換の機会の設定
- ・ 関係機関との調整やしきづくり

6 今、取り組んでいること

「生み出した時間」を子供たちの柔軟な学びに！

自分の学習状況から課題選択して学ぶ



教科で生まれた「知りたい」を調べる



自分の興味あること、好きなことをひたすら探究する



【令和6年度から】

子供たち一人一人が自分の興味・関心や学習状況から自分に合った学びを選択する活動に各学校で取り組んでいます。

各学校に合った形でチャレンジ中

／目黒区研究開発学校（小学校）の意識調査（教員）／

- ・ 児童が自らの学びの目的意識と選択の根拠をしっかりと、学んでいる姿がたくさん見られた。
- ・ 子供たちが「自由」の中で、生き生きと学ぶ姿を見て日ごろの自分自身の授業の在り方も考え直さなければいけないと思った。よりよい伴走の仕方もあると思う。
- ・ 自分の好きを追究することが、自己の理解につながると思った。この活動を学校の中でやることで、友達のことを理解したり、尊重したりすることにつながると思う。

7 次期学習指導要領への期待

／ 学校の実態に合ったより適切な教育課程を編成し、教育の質向上のために／
学習指導要領の内容の着実な実施を前提に、「生み出した時間」を以下の時間に充てることを可能にしていきたい。

- ・ 各教科等以外の特色ある教育活動
- ・ 教育の質向上のための教員の研究・研修等

※教育活動の質の向上につなげるために以下の取組は大切。

- ・ 教育委員会が各学校の取組を適切に把握し、伴走支援し、状況に応じて是正する
- ・ 保護者や地域住民へ取組を情報発信する